

バレーボールを通じた学生指導者の地域貢献活動について —クラブチームにおける初心者カテゴリー指導活動から—

A Study about Local Contribution Activities through Volleyball by Student Leaders —From Teaching Activities for Beginner Category in Club Team—

永 谷 稔

Minoru NAGATANI

キーワード：バレーボール，学生指導者，地域貢献，クラブチーム，初心者

I. 緒 言

本年報第7号において、バレーボールを通じた学生指導者の地域貢献活動について、近隣市体育館主催による半年間23回に渡る長期間の小学生初心者対象バレーボール教室の指導を行った結果をまとめ報告した。

学生指導者の総合的な満足度は高かった。しかしながら、やはり初心者指導に対する難易度の設定や、男女の能力差があるなかでの指導については、常に葛藤を持ちながら続けていたこと、また、参加者がつまらなそうにしていることに対して、指導力の無さを痛感する学生がいた。一方、参加者の満足についても、概ね満足している様子であった。しかし、男子の一部は、希望する教室ではなかったこともあり、満足度が低かったのではないかと推察している。

主催担当者は、開催前計画時に、経験豊富な指導者ではなく、あえて学生による指導を期待していた。そのため、本学においても指導に対する経験不足や未熟な点については確認したうえで、バレーボールを通じて運動を実施すること、楽しく運動を実施することをねらいとして、実施したものである。この点において、主催担当者の意図は理解しながらも、学生指導者の力量不足により、十分に達成できなかった反省があった。

小学生に対する初心者指導については、やはり経験が必要と考えるが、少年団に入団しない層を取り込み、橋渡しをする目的であったり、バレーボールを通じた運動や冬季間や雨天時でも実施できる活動と捉えるのであれば、経験が少ない学生指導者であったとしても、バレーボールの楽しさやあるいは難しさについては、十分伝え

られるものであると考え、近年の少子化や小学生の運動不足、あるいは運動機会の提供という観点で、学生指導者であっても地域貢献に寄与するものと捉えている。

学生による地域貢献活動について、池田(2010)は、大学を拠点にした総合型地域スポーツクラブにおいて、学生の時間的・財源的負担が発生し、加えて、指導教員も学生指導の負担が発生すると指摘している。また、松下(2005)は、大学近郊の地域において、地域のスポーツ活動の活性化や健康増進への期待や要望が大きいとしている。そして、そうした地域にある大学としても、指導体験を多く積み、実践的な教育機会を得る意義は大きいとしている。つまり本学においても、生涯スポーツ学部が設置され、スポーツ系団体に所属する学生を多く抱えるため、そうした現状と同様であると考えられる。

本学においては、北方圏生涯スポーツ研究センター(スポル)において、総合型地域スポーツクラブ(スポルクラブ)が設立されているが、子どもたちを対象としたプログラムは体操系の教室のみである。本学および本センターの背景から鑑みると、他の競技についても、子どもたちを対象とした教室活動などを展開していくことも検討することは有用である。現在でも不定期ではあるが、野球教室、走り方教室などは実施されており、学生も指導者として補助に入ったり、実際に指導に当たったりしている。定期的なプログラムとなると展開実施場所や費用負担などの問題が山積されるが、学生が一人前の指導者になるまでには、相当の時間も要するため、スポット的であれ機会があれば経験をしたり、取り組んだりすることに特段異論や疑問を感じるものではないと考える。

前報告で開催されたバレーボール教室は、募集人数不足とのことで主催者判断により残念ながら継続されな

かった。そこで、このたびは、新に札幌市内においてクラブチームとして活動している初心者カテゴリーの指導をお手伝いする機会を頂いた。その活動をまとめ報告とするものである。

Ⅱ. 研究方法

本研究の対象は、札幌市内に本拠地を置く総合型地域スポーツクラブにおけるバレーボール12歳以下の男子初心者カテゴリー会員の指導に当たった学生指導者および担当者である。会員の参加者は、男子17名のうち、主に初心者の8名(小学1年生6名,小学2年生2名)である。学生指導者は本学女子バレーボール部に所属する4年生4名で、2名は教員免許取得希望者である。バレーボール指導に関しては、講習会等での指導補助としての経験はあるものの、定期的で長期間の指導は初めてである。担当者3名は、バレーボール12歳以下の担当者であり、学生指導者に対しても、当日の指導内容や方法について指示を仰ぎながら実施いただいた。教室の実施期間は、平成29年10月より平成30年1月までの毎週火曜日18:00～21:00まで、場所は札幌市A区内小学校体育館である。

指導実施前および実施後前半に1回、終了後に1回、学生指導者4名と担当者3名に対して、学生指導者に対しては1対4のグループインタビュー形式、担当者に対しては1対1を3回のインタビュー形式で行い、定められた質問テーマに対して半構造的に調査を実施した。これらの質的データをもとに、その変容を明らかにしていくものである。参加者と保護者への調査は行っていない。あくまで学生指導者と担当者のインタビュー調査の報告とするものである。学生指導者については、毎回の指導に対してそれぞれ報告し、次回以降の指導へ活かすよう心がけさせた。また、担当者については、都度、改善点

や要望を伺いながら、双方にとってより良い機会となるよう心がけた。これら調査結果をもとに、学生指導者前半と後半の変容についてまとめ、今後の本学スポルクラブや、大学の地域貢献活動におけるプログラム実施検討、学生指導者育成に役立てたい。

Ⅲ. 結果と考察

1. 前半インタビュー調査結果について

学生指導者が実施した日付および指導者数、指導内容については(表1)に示すとおりである。そして、前半および後半のインタビュー調査結果をまとめたものは(表2)に示すとおりである。

以下、学生指導者および担当者毎に考察を加える。

1) 学生指導者(前半)

学生指導者に依頼した時期は、全員4年生であり、後学期という時期である。所属をしていた女子バレーボール部の現役活動も一線を退き、就職活動も終焉を迎え、教育実習や資格取得をする時期であった。大学の講義や演習もおおよそ単位修得は完了し、卒業や今後の進路へ向けて準備をし始める時期である。本学生涯スポーツ学部、スポーツ教育学科あるいは教育学科として、そしてスポーツ系団体を有する大学として、何より本センターあるいは本センタースポーツクラブの取組の一環として、学生の指導者養成と実践経験の積み重ねは必要不可欠であるという認識である。したがって、こうした機会を有効活用するものである。

指導者依頼した学生4名は、2名が保健体育教員免許取得を希望し、うち1名はすでに教員採用検査を合格し、次年度より高校の保健体育教員として採用が決定している。もう1名は公務員として内定している。社会教育に

表1 指導日・回数および内容について

回数	日付	学生指導者数	指導内容
1	10月3日	3名	ソフトバレーのゲームとオーバーアングラーの指導
2	10月17日	3名	初心者とパス、低学年ボール遊び、高学年4対4パスゲーム、シート練習、中学生女子3メン、小学生とゲーム、中学生ゲーム以外のメンバーに球出し
3	10月24日	2名	初心者パス基礎指導、初心者サーブ練習、中学生女子とアップとレシーブ、中学生男女とレシーブ練習、小学生全員で直情オーバーリレー(エンドライン往復)
4	10月31日	2名	低学年に基礎指導、ストレッチトレーニング、小学生と中学生にシートレシーブ、低学年とミニバレー、2段トス、中学生とゲーム
5	11月7日	2名	小1年に個別基礎練習、小1年にミニバレーで2セット、小2年2名にオーバーアングラーレシーブ個別練習、小2/3/4年にレシーブ練習、中学生とゲーム
6	11月28日	3名	低学年にボールアップ指導、低学年にサーブレシーブ、低学年とミニバレー、低学年に基礎練習、高学年に2メン、中学生とゲーム
7	1月16日	2名	低学年とミニバレー、低学年と基礎練習、低学年とシートレシーブ、低学年とゲーム、中学生とゲーム
8	1月23日	3名	低学年とミニバレー、高学年とゲーム、中学生とゲーム

表2 学生指導者および担当者の変容について

	前半インタビュー	後半インタビュー
学生指導者	<p>【指導意欲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導に対して意欲はある ・指導に対して不安である <p>【指導内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何をしたら良いか分からない ・小学生の初心者への扱い方が分からない <p>【指導への期待】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの指導はしてみたい ・将来指導者になるために経験を積みたい <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動が困難 ・教育実習があり、人数調整が厳しい ・2名以上で指導したい（ひとりでは難しい） 	<p>【指導意欲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者の補助というかたちであれば、責任も負担もあまり感じず実施できた ・正直あまり意欲的ではなかったが、子どもたちの一生懸命さや努力している様子に感銘した <p>【指導内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者の指導や指示の下実施していたので、特段困ることはなかった ・小学生や初心者の指導ということで、不安だらけであったが、一緒にバレーボールを楽しめた ・中学生の相手をすることもあり、体力的には大変なこともあった <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者としての経験を積むことができた ・総合的には満足している ・小学生の成長を感じ取り、貢献できたと思い、嬉しかった ・積雪時の移動が困難であった（場所が不便）
担当者	<p>【指導への期待】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が指導についてもらえることはありがたい ・学生の指導経験につながれば良い ・子どもたちにとっても刺激となる <p>【指導内容について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導内容については、随時指示をしながら進める <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に期限を決めて来て欲しい（単発でなく） 	<p>【学生指導者の指導状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示した以上にいろいろ考えながら実施してくれた ・期待以上に子どもたちに関わってくれた ・指導技術や内容についてはまだまだな点も多いが積極的に関わってくれてありがたかった <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能であれば、定期的に指導に当たって欲しいという思いはある

携わり、ゆくゆくは子どもたちのスポーツ指導に携わることを希望している。そして、2名は一般企業が就職先であるものの、当初より子どもたちへの指導に興味を示し、先の2名とともに日本スポーツ協会公認のバレーボール指導員資格を取得すべく、講習会の参加と学内の必要科目を取得している。

こうした学生指導者に対するインタビュー結果をまとめると、指導意欲に対しては高く子どもたちの指導はしてみたいという欲求も高い半面、小学生や初心者への指導に対する不安が必要に強く表れていた。何を指導したら良いか分からないとか、2名以上で行いたいなどは、そうした不安や心配の表れであると推察する。しかし、その点については前回の反省もあり、クラブには指導者を行う担当者が3名在籍しており、学生のみが指導に当たることはなく、その担当者が指導の中心であり、あくまで補佐的補助的に指導に当たることにより、そうした不安や心配に対してフォローがなされる旨説明しており、送り出す側としても今回は大きな問題は少ないと考えていた。

そのほか、教育実習で日程調整が困難であるとか、指導する小学校の体育館までの移動や交通機関が困難であることについては、実は大きな問題であり、懸念することであった。指導依頼した学生のうち3名は本学周辺に居住し、もう1名は指導する小学校の体育館と本学とは反対方向に居住していた。クラブ側、筆者をはじめとした本学関係者が送迎しても、あるいは本人たちが公

共交通機関、まして自ら移動しても、責任の所在や費用負担や時間がかかるなど、現実的な問題や課題としては大きいと感じた。

2) 担当者（前半）

担当者については、3名それぞれが50歳代、40歳代、30歳代である。50歳代と40歳代の担当者は、指導者経験が非常に豊富であり、指導するチームが全国大会の出場を果たしたり、高校や大学で北海道あるいは全国を代表する選手となって活躍している選手を指導している。30歳代の担当者は、自身の競技経験が豊富であり、全国大会の出場を果たすなど輝かしい成績を収めている。この3名がクラブチームの小学生カテゴリーの指導者として主に担当している。

担当者については、学生が指導をするにあたり、事前に打合せを行う中で、インタビューを行い、学生の指導への期待や指導内容について伺った。その結果、学生が指導についてもらえることは非常にありがたく、小学生のアンダーカテゴリーであると、技術レベルの差が激しく、マンツーマンでも足りないくらいであり、また小学生低学年であると興味関心を練習の時間内継続させていくことが難しいため、指導経験が少なくても歓迎したいとのことであった。こうしたことが、学生の指導経験にもつながり、子どもにとっても刺激になるとのことであった。

また、指導内容については、基本的に担当者から指示

や助言を受けながら実施して欲しい旨伝えており、担当者からも基本的には単独で実施することはなく、毎回1名以上は担当者が指導に来ることとなっているため、より複数で指導に当たれることは大変助かるとのことであった。しかしながら、あまり単発で来られるとアテにもできないことから、定期的に計画的に期限を決めて実施したいとのことであった。したがって、9月から1月の大会が終了するおおよそ半年間と期限を決め、週1回の頻度ではあるが学生が指導することとなった。

2. 後半インタビュー調査結果について

後半のインタビューについても先の(表2)に示す通りである。前半との変容が明らかとなるよう併記している。前半のインタビュー結果同様に、以下、学生指導者および担当者毎に考察を加える。

1) 学生指導者(後半)

学生指導者は、約半年の間ではあるが、計8回指導に当たることができた。予定では、できる限り毎週火曜日ということであったが、4名のやりくりと移動手段の確



写真1 指導の様子①



写真2 指導の様子②



写真3 指導の様子③ 右円の中心が担当者のひとり



写真4 小学生同士でも教え合っている様子

保に困難を極めたため、結局8回の実施のみとなってしまった。この点については、課題となる点であった。しかしながら、8回の指導を経て、大きく変容する様子がインタビューにおいても明らかとなった。

指導意欲については、指導の補佐や補助という立場であることを事前に担当者との打合せていたこともあり、前半のインタビューでは不安や心配がかなり全面に出ていたものの、後半のインタビューにおいては、特段意欲が下がることもなく、指導実施については非常に積極的な姿勢が伺えた。また、正直さほど意欲的ではなかったが、子どもたちの一生懸命さや努力している様子に驚くなど、指導者としてのやりがいを感じさせる発言もあった。指導内容についても、指導の補佐や補助という立場であったためか、内容に関して特段困ることがなく、小学生低学年や初心者指導に不安を持っていたものの、楽しく実施できたとのことであった。総合的に満足感を得ることができ、指導者としての経験を積むことができ、小学生の成長を明らかに感じ取ることが出来るほどであった。

しかしながら、前半のインタビューでも懸念や課題として挙げられていた移動の困難性・不便性については、やはり大きな課題として挙げられた。現実的な問題や課題として大きいと事前に分かっているながらも、現状では対処が非常に困難な点であると感じざるを得ない。交通費の補助といった経済的な部分もちろんであるが、指導の際の自身のケガや小学生のケガに対する保険加入は可能であるが、経済的な部分だけでは解決しない問題も多く包含されており、こうした学生指導やボランティアといった活動の不可避な課題であると感じる。

2) 担当者 (後半)

担当者3名については、学生指導の後半練習後に、それぞれインタビューを実施した。それらの結果をまとめると、以下の通りである。

学生の指導状況については、決して指示待ちではなく、指示した以上にいろいろ考えながら実施してくれたとのことであった。もちろん、指示されたことを大きく逸脱したりすることはなく、指示されたことをよく理解しながら、小学生に対しての指導を試行錯誤しながら慎重に進めていたとのことであった。敢えて、細かく指示しない様子は、学生へ細かい指導内容を自身でよく考えさせるという、配慮があったものと推察する。その結果、期待以上に子どもたちに関わってくれたとの評価もあり、もちろん、技術的には未熟であるものの、積極的な点は評価が高かった。そして、可能であれば、今後も定期的に指導に当たって欲しいという思いをもって頂いた。

残念ながら、指導実施回数が8回であったことについては、学生も意欲がありながら、移動困難という現実的な問題により、回数が制限されてしまったことは、非常に残念であった。担当者も平日の18時からの練習であり、さほど遠くないとはいえ、学生の送迎に当たることは難しく、そうした負担をしてまで行うべきかどうかは、やはり、現時点では大きな課題であると考えます。

このクラブチームでは、バレーボールのスクール事業実施も念頭にあり、本学学生指導者の活用と連携を模索した経緯もある。結局、現実化しなかったわけであるが、報酬やシフトといったことよりも、やはり移動手段や責任の所在といったことが大きかった。

IV. まとめ

本研究では、バレーボールを通じた学生指導者の地域貢献活動について、クラブチームにおける初心者カテゴリー指導活動から、学生指導者とその担当者のインタビュー調査により、前後の意識変容を明らかにした。

指導実施前および前半と後半の意識変容について、数

的な有意として示すことはできなかったが、学生の意識変容は大きいことが明らかとなった。前回小学生の初心者指導をした際、やはり経験豊富な指導者の指導の下、学生指導者が補佐や補助として指導するような状況であることが望ましいことが指摘された。したがって、経験豊富な指導者が主に指導に当たりながら、活動を行っているこのクラブで指導実施できたことは、学生の指導経験上非常に有意義であったと考えられる。担当者にはそうした意識は無いものの、子どもたちへの指導もさることながら、明らかに学生指導者への指導も同時並行に実施して頂いている。指導者としての本能でもあるかも知れないが、学生指導者の高かった意識も合わさって、今回の学生指導は非常に双方にとってプラスであり、メリットがあった。

スポーツ界を巡っては、指導者の暴力やセクハラやパワハラといったニュースが日常茶飯事化してきている。また、中学校や高等学校の学校運動部活動指導に当たる先生方は疲弊している。指導者数の不足あるいは指導者のなり手不足が叫ばれながらも、教員の指導者資格取得の意識は低いという調査結果も出ている。一方で少年団活動のように底辺を築く活動に対しては、重要性が高いと思われるものの、少年団自体の運営がままならなかったり、地域や学校との連携はなかなか進んでいない。本研究の対象としたクラブチームは、一少年団活動からこうした状況に鑑み、バレーボールだけでなくスポーツを通じて老若男女障がいの有無に関わらず、笑顔にしていこうと創設された総合型地域スポーツクラブである。本学も指導者養成については、貢献していかなければならないところであり、保健体育教員が指導者資格を取得するだけでなく、一般社会人であっても指導に関わる可能性や希望があれば、資格取得すべきである。また、そうした有資格者が指導に当たれる環境も用意しなければ、この指導者不足は解消されず、まして少子化の現代において、各スポーツの底辺や裾野を上げていくことは非常に困難である。こうした取組の一つひとつが、相乗作用を生み出し、日本の青少年スポーツ基盤を明るく豊かにしていくための一翼となればと考える。

謝 辞

この度、貴重な機会を頂いた、クラブチーム担当者及び関係者の皆様、拙い学生による指導にもかかわらず最後まで参加して頂いた小学生クラブ員および保護者の皆様、また、指導に関してご助言ご相談頂いた皆様には、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

クラブの提案. 同志社スポーツ健康科学, 1 (1): 61-70, 2009.

付 記

本研究は、平成29年度北方圏生涯スポーツ研究センター・センター選定事業として実施した。

文 献

- 1) 馬場宏輝, 丸山富雄, 仲野隆士他: 大学を核とした総合型地域スポーツクラブの創設・育成・運営の可能性について～仙南広域スポーツ研究会の活動報告から～. 仙台大学紀要, 40 (1): 111-123, 2008.
- 2) 服部直幸, 土井進: 学生主体の地域貢献活動「信大YOU遊未来」による学生の成長. 教育実践研究: 信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 14, 91-100, 2013.
- 3) 東根明人: 子どものつまずきがみるみる解決するコーディネーション運動ボール運動編. 明治図書出版, 東京, 2007.
- 4) 平岡亮, 北澤一利, 小澤治夫他: 大学が実施した地域住民の健康づくりを目的とする地域貢献活動の報告. 釧路論集: 北海道教育大学釧路分校研究報告, 37, 109-115, 2005.
- 5) 池田孝博: 大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブの運営に関する諸問題. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 19 (1): 1-8, 2010.
- 6) 工藤憲: スキルアップドリルー小学生バレーの指導者を目指す人の「必携バイブル」. 日本文化出版社, 東京, 2014.
- 7) 松下雅雄: 学生のスポーツボランティア活動の支援事業ースポーツの実践的指導力を持った学生を“地域とともに”育て、地域のスポーツ活動を活性化する (特集 大学の地域貢献の促進) 大学と学生 (18). pp. 32-36, 第一法規, 東京, 2005.
- 8) 村上里志, 椎葉浩亮, 田村桂子他: 地域住民・学生・教員の地域共生を目的としたフィットネス教室の開催. 体育・スポーツ教育研究, 4 (1): 12-17, 2002.
- 9) 永谷稔, 工藤憲: バレーボールを通じた学生指導者の地域貢献活動についてー札幌市A区体育館における初心者小学生指導活動からー. 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報, 7: 165-170, 2017.
- 10) 炭谷将史: 大学を核とした地域密着型クラブの意義と課題ー大学側の視座からの考察ー. 聖泉論叢, 21, 25-34, 2013.
- 11) 竹田正樹: 「京たなべ・同志社スポーツクラブ」を例とした大学と地域連携による地域総合型スポーツ